

1. 法人の概要

・設置する学校 (令和7年5月1日現在)

(単位:人)

学 校	学科・専攻等	収容 定員	在学 者数	専任教職員数		
				教員	職員	計
新渡戸文化子ども園 (共学)		175	144	20	1	21
新渡戸文化小学校 (共学)		360	353	28	6	34
新渡戸文化中学校 (共学)		180	151	14	0	14
新渡戸文化高等学校 (共学)	全日制 普通科	300	338	21	2	23
新渡戸文化短期大学 (共学)	食物栄養学科・フードデザイン学科	160	129	10	10	20
	専攻科	20	0			
	臨床検査学科	240	196			
事務局 (給食を含む)					25	25
合 計		1,435	1,311	107	49	156

・役員および評議員 (令和7年5月1日現在)

役職名	氏 名	説 明
理 事 長	平岩 国泰	就任日令和元年6月1日
常務理事	清田 裕	就任日 令和7年4月1日
理 事	7 名	理事会による選任4名、評議員の互選2名、学校長1名 (理事長、常務理事を含む)
監 事	2 名	学外者2名
評 議 員	20名	教職員から4名、卒業生から2名、法人に関係ある学識経験者9名、 理事の職にある者(評議員の互選2名を除く)5名

2. 事業の概要

当該年度の事業項目	事業の目的、概要
子ども園	<p>【教職員の個性を尊重し、子どもを主語にした保育を実践し、一歳児保育の安全な運営を図る。】</p> <p>1. プロジェクト保育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高橋教授の「探究の遊び」研修継続し、自発的な遊びを探究につなげる為の適切な支援と環境設定について研修を重ねて保育を実践した。 ・朝の会で遊びの振り返りを実践、教員と子どもの対話からプロジェクト活動の深まりを促進した。 ・製作ワゴンや図鑑、図書館の充実を図り、子どもが遊び込める環境を整備(補助金を利用)した。 ・教員の当事者意識を持たせるために全教員参加のキックオフ研修を実施(12月)した。 ・週2回の「プロジェクトDAY」を継続し、園児自身が選択する園児同士や教員との対話を充実できた。 ・在園保護者・入園希望者への教育内容の発信：公開保育、保護者参観で実施した。 ・子どものやりたいことを中心とした、イベントを企画・運営(発表会、年長イベント、さつまいもプロジェクト)した。 ・発表会は、子どもがやりたいことを選んで発表する形式を継続し、学年ごとに実施することで教員の負担も軽減した。 <p>2. 業務削減と保育の質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事における教員負担の軽減(小行事のテンプレート化、簡略化)ができた。 ・保育士確保のため、採用説明会を実施した。 ・離職防止と新規採用促進のため、土曜日出勤の翌週に代休取得と、休憩時間の確保ができた。 ・教員研修(全体研修として：危機管理、子どもの人権、救命講習、個別研修としてテーマ別研修を月1回程度実施及び外部研修(キャリアアップ研修等)並びに他園見学を実施した。 ・非常勤職員の専門的研修受講促進を継続したが、受講は限定的であった。 <p>3. 安心安全な園で、常に誠実な社会的責任を遂行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1歳児保育をはじめ、あらゆる状況下における子どもの安全の最優先と保護者満足度の維持ができた。 <p>4. 未来へ挑戦する強みを持った人気園への進化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「探求の学び」を他園との差別化の材料にできるよう、教員研修を充実した。教育の質向上を第一に実践できた。 ・P保育の教育活動を入園希望者へ発信：公開保育、保護者参観で実施(3歳児)した。 ・1・2歳児クラスの差別化と、保育の質向上に向けて課題を抽出した。 ・保護者インタビューでヒヤリングを継続した。

<p>子ども園</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認可外保育園への保育料補助金拡大が追い風となるよう、広報との連携による積極的な広報活動を実施した。 ・1歳児クラスの安定運営の継続ができた。 ・体験入園（0～3歳児）・保育体験の開催を継続した。 ・教員全体の意識改革：園全体の保護者満足度を向上させることが、最終的に将来の入園希望者の獲得となるという意識を持ち、保護者に寄り添った保育の実践に立ち返って保護者支援を行った。 5. 幸せを感じるペアレンツサポートの徹底 <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の声に応じて、毎年継続した改善策を実施した。（お迎え時間の拡充、年長午睡の選択制） ・保護者による「保育士体験」を実施し、多くの保護者が参加した。 ・スクールカウンセラーによる子育て相談を実施した。 ・子どもを主語にした丁寧な保育、自立を促す保育を促進した。 ・在園児保護者向け講座を実施した。（親子クッキング） 6. 教員幸福度の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・離職防止と新規採用促進のため、土曜日出勤の翌週に代休取得と、休憩時間の確保ができた。 ・早期の退職の意向調査と新規採用活動の早期化により2名採用できた。 ・採用内定者の辞退防止のため、内定後の定期的なフォローを実施した。 ・乳児の教員の休憩時間確保ができた。幼児担任は限定的であった。 ・教員（常勤・非常勤）との定期的な1 on 1面接を実施（5・7・9・11月）した。 ・長期休暇の取得希望を申請の上、休暇の取りやすい環境づくりができた。 ・残業時間数目標 月平均10時間以内の実現は未達であった。
<p>小学校</p>	<p>【「子どもが主語」の視点で小学校教育を見直し、新しい小学校のモデルとなる】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもが主語となる学校生活や行事の実現 <ul style="list-style-type: none"> ・全校ミーティングを行うことによって、子どもが主語となる学校づくりに取り組んだ。 ・全校ミーティングで決定したものは、その運営にも子どもが参画できた。 ・各学年の行事で子どもたちが企画・運営に参画できた。 ・日々の授業や学級経営でも「子どもが主語」となる活動の実践に努めた。 2. 基礎基本を身につけた自律型学習者の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・1～5年生でCRTテストを実施し、全て全国平均以上であった。 ・道徳については、年間計画を策定し、教科書に基づいた授業を展開できた学年もあった。 ・教員の資質向上を目指し、外部講師を招聘した校内研修の充実が図れた。 ・外部研修にも積極的に参加し資質・指導力の向上ができた。 3. 教師の個性を生かした授業の創造 <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト科の授業の発展に努めた。 ・各教科においてもプロジェクト型の学びを展開した。 ・チーム担任制を機能させ、安定した学年経営の実現ができた。 ・一人一人の教師が個性を生かした授業の創造に努めた。 ・一人1回以上の公開授業を行い授業後は協議会を実施した。 ・外国語教育について、令和8年度に新カリキュラム策定に向けて検討を行った。 ・残業時間数目標 月平均15時間以内は未達だった。 4. 安心安全な学習環境の整備・保持 <ul style="list-style-type: none"> ・「自律のための規律」について教員の共通理解のもと、確実な実践を行なった。 ・問題行動の改善が見られない児童に対して保護者対応を含め毅然とした対応を行った。 ・年間5回、子どもに学校生活アンケートを実施し、現状把握といじめの解決に努めた。 ・毎学期末、保護者に対しての学校生活アンケートを実施し、それに基づく、現状把握をした。 ・第二東京弁護士会の協力を得て、「子どもの権利を考える授業」を実施した。 ・ハイパーQIを年間2回実施。外部講師を招聘し、研修会を行う。子どもたちの学校生活の満足度やクラスの状態を調べ、教師の指導を見直し、よりよい学級経営を推進した。 ・子どもの目線に立って危険箇所の発見と速やかな修繕に努めた。 5. 第1志望で選ばれる小学校の実現 <ul style="list-style-type: none"> ・探究を軸とした、独自の強みによるブランディングの実現に努めた。 ・SNS等対応チームを編成してのマーケティング推進に取り組んだ。 ・保護者の期待、要望を考慮した説明会の企画実施を行なった。 ・入試内容の改善と評価方法の再構築を行なった。 ・過去のデータを分析し、実態や傾向を把握し、適切な募集活動を展開した。 ・在校生保護者向け内部広告の充実を努めた。 ・子ども園との連携を深め、内部進学者15名以上を実現した
<p>中学校</p>	<p>【探究型学習に取り組むことにより主体性と創造性にあふれた学びを実現する】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自走する生徒の育成 <ul style="list-style-type: none"> ＜社会性とメタ認知能力の育成＞ ・社会性とメタ認知の基盤となる規範意識の醸成を図った。 ・放課後活動（CBL）の充実を図った。

<p>中学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動の活性化（スクールライフ改訂、行事運営等）を図った。 ・新渡戸祭、 Stafes企画運営（PBL発表の場としての整備および外部公開の推進）をした。 <p>2. 中学3C教育コンセプトの完成 <非認知能力育成型教育等の改善></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科横断的・縦断的な学習活動を展開した。 ・自己肯定感の向上及び学びへの契機となるクロスカリキュラムを展開した。 ・リテラシーとコンピテンシーのバランスに配慮した教育デザインを追求した。 <p>3. メンターとしての自律型教員集団 <研修と実践による意識改革とスキル獲得></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育理念の共通理解と当事者意識の醸成を図った。 ・校務組織（デザインチーム制等）を改善した。 ・年間行事計画を見直した。 ・残業時間数目標 月平均15時間以内は未達であった。 <p>4. Society5.0適合型カリキュラム <語学力とICT自在活用力の育成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動履歴の蓄積と振り返りによるメタ認知能力を育成した。 ・クロスカリキュラムにおける中高接続を推進した。 <p>5. 教育CSV（Creating Shared Value）を牽引するNITOBEBランド募集強化 <第一志望校としてのブランド確立></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育方針周知・理解と信頼の醸成 ・学校評価アンケートに基づく教育活動を検討・改善した。 ・中高内部進学要件を改善（外部生との学力格差解消）した。 ・学園広報との連携による効果的生徒募集策を推進した。 ・スタディーツアーを改善した。
<p>高校</p>	<p>【社会課題に取り組むことにより独創性と共創性にあふれた学びを実現する高等学校になる】</p> <p>1. 越境する生徒の育成 <生徒の自己表現支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムにコンクール対策等を織り込むとともに、校外活動を奨励した。 ・デジタルデバイスを活用したプレゼン力・表現力を磨く活動を推進した。 ・体育祭、新渡戸祭・ Stafes等行事企画運営の生徒主体化を図った。 ・一社「旅する学校」との協働によるCBL（Challenge Based Learning）「三重プロジェクト」を推進した。 <p>2. 高校3C（Core Learning/Challenge Based Learning/Cross Curriculum）教育 コンセプトの完成 <カリキュラム改善></p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決力、論理的思考力・表現力を養う授業を研究・実践した。 ・クロスカリキュラムを軸とした知識の統合と学びの深化に向かうデザインを追求した。 ・リテラシーとコンピテンシーのバランスに配慮した教育デザインを追求した。 ・2027年度に向けた新カリキュラム案を構築した。 <p>3. 多様かつ卓抜な進路実績 <生徒の自己実現支援></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の外部発信による提携の推進及び高大連携を推進した。 ・海外大進学を含む多様な進路指導を推進した。 ・小論文等言語表現力の育成プログラムの開発を進めた。 ・年内入試に即した英検取得および探究実績のポートフォリオ化を促進した。 <p>4. ファシリテーターとしての自律型教員集団 <教育理念理解と当事者意識の醸成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務運営の効率化・公平化の促進と意思決定の明確化・簡素化を図った。 ・Webex Teams、google等による情報共有と進捗管理の効率化を図った。 ・自主研修、OJT、研究授業等による教科指導の専門性を強化した。 ・学園各校および事務局との連携強化（円滑にして臨機応変な施設使用等）を図った。 ・残業時間数目標 月平均15時間以内は未達であった。 <p>5. 教育CSVを牽引するNITOBEBランド <第一志望校としてのブランド確立></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学園広報と連携した戦略を展開した。 ・入学者数適正維持に向けた入試方法の改善を図った。 ・スタディーツアーの改善と成果発信の強化を図った。 ・タム留学等国際教育プログラムの充実を図った。
<p>アフタースクール</p>	<p>【常に子どもを主語におきながら子どもたちの自律に挑戦し、「全国のモデル」となるアフタースクールをつくりあげる】</p> <p>1. 子どもが常に主語である運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後の過ごし方に多様な選択肢があり、子どもたちが過ごし方を選べる環境づくりを実現した。

<p>アフタースクール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの「やりたい」に寄り添い、その実現に向けたスタッフの取り組みを実施した。 2. 自律と規律を両立しながら子どもを育てる <ul style="list-style-type: none"> ・自律の一步である時間管理を行える子どもの育成を実施した。 ・しっかり規律を守りながら自律に向かえる環境づくりに注力した。 3. アフタースクールを支える自律したスタッフ <ul style="list-style-type: none"> ・常勤・非常勤ともに「子どもを主語」に考える体制づくりを実現した。 ・子どもと対話し、子どもの声を拾い、寄り添えるスタッフの育成に注力した。 ・残業時間数目標 月平均10時間以内を達成した。 4. 中高学年も来るアフタースクール <ul style="list-style-type: none"> ・高学年と共につくる、高学年だけの居場所の創出に挑戦も、まだ未達成であった。 ・中高学年にとって魅力的な各種プロジェクトを展開した。 5. すべてのベースとなる安心安全な居場所 <ul style="list-style-type: none"> ・大きなケガや事故を未然に防ぎ、安全性を保つスタッフ育成と体制づくりを実現した。 ・小学校と連携し、情報共有を行いながらの子ども・保護者対応を実施した。 6. 第1志望実現のための各校への教育活動・募集活動貢献 <ul style="list-style-type: none"> ・アフタースクールとしての小学校の教育的付加価値に貢献した。 ・プログラム、プロジェクト、部活動、クラブ活動における幼小中高と連携した。
<p>短大</p>	<p>※短期大学は、2024年度文部科学省「私立大学等の戦略的経営改革支援」に応募し、対象校として選定された経営改革5ヵ年計画（2024～2028年）資料を参照（別紙）</p>
<p>事務局</p>	<p>【私学法改正を機に「未来の学校」の実現に向けた経営基盤を整備する】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 強靱な財務体質の保持 <ul style="list-style-type: none"> ・100周年以降を見据え安定したキャッシュフローを継続して創出した。 →昨期末比+0.8億（追加の資産運用2億実施した為、現預金残は前年比▲1.2億円の 見込） ・ディスクロズ・セグメントを柱とし2027年度の新会計制度へ移行に向け会計士と調整中。 ・納付金以外の収入拡大策を継続して検討した。（助成金活用・規程枠内での追加資産運用2億等） ・主管毎の経費予算内容の明確化と予算管理精度の向上を図った。賞与引当金に係る会計制度変更に伴い、今期収支着地予測は▲58百万円。 ・キャッシュレス化の推進として、パーチェシングカードの導入を開始した。 ・私学法改正に伴い整備した寄附行為、制定・改正した規程類に基づく運営の定着を進めた。 ・監事機能の強化と顧問弁護士・会計士・社労士との連携によるコンプライアンスの徹底に努めた。 ・内部統制システム2年目は、外部との契約内容の確認をチェック項目に追加した。 3. ウェルビーイング向上に向けた取組みの強化 <ul style="list-style-type: none"> ・新人事制度導入2年目、PDCAによる精度を向上と残課題の解決を推進した。 ・健康経営への取組み強化に向け衛生委員会の運営方法・体制の見直しを実施した。 ・職務手当対象者の拡大、年齢での昇給制限の見直し等、教職員の声を人事制度を見直し反映した。 ・採用強化に向けた新施策の検討と人事視点でのSDGsへの取組みを実施した。 ・OJT、外部機関を含めた教育制度の検討を進めた。 4. 戦略面・広報面の各校サポート <ul style="list-style-type: none"> ・2027年度の100周年を視野に各校・全部門で2025～2029年度の中期計画を策定し、各校における計画策定をサポートした。 ・中野区との合同事業・学園独自の地域連携イベントを継続して行い、地域に貢献した。 ・キッズデザイン賞（協議会会長賞）の受賞をサポートし学園をPRした。 ・有力メディア（朝日・日経新聞）とのネットワークを活用したPRを継続して推進した。 5. 100周年に向けた準備加速とSDGsへの取組み <ul style="list-style-type: none"> ・100周年委員会を2年後に控えサイトの立上げ準備、各校と調整し記念行事の内容を具体化した。 ・学園OBの現役支援に向けたインフラとなる学友会組織（NFS）を設立した。（サイト開設） ・エネルギーや廃棄物等のSDGs関連の取組みを中期計画を立て目標の定量化を進めた。 6. 競争力維持を目的としたシステム・設備投資の継続 <ul style="list-style-type: none"> ・内部統制と連携システム・設備面の高リスク項目を洗い出し早期に対応した。 ・テクノロジー活用（AI等）と事務業務の標準化により教育・事務双方の生産性を向上させた。 ・11号館建替に向けた同窓会との調整と（3月明け渡し）、11号館を含めた教室再配置及び改装計画を立案した。

3. 令和七年度理事会等の開催状況

日時	会議
令和7年4月9日	評議員会
令和7年5月28日	理事会
令和7年6月25日	定時評議員会
令和7年9月17日	理事会・評議員会
令和7年12月10日	理事会・評議員会
令和8年3月18日	理事会・評議員会

4. 財務の概要

・収支の推移

(単位 百万円)

	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
A. 事業活動収入	1,766	1,898	2,109	2,251	2,200	2,256
B. 基本金組入額	△69	△234	△57	△154	△111	188
C. 事業活動収入(A+B)	1,697	1,664	2,052	2,097	2,089	2,444
D. 事業活動支出	1,894	1,966	1,987	2,057	2,100	2,267
(基本金組入前当年度収支差額A-D)	△128	△68	122	194	100	△11